

川越市駅周辺まちづくりビジョン(原案)に対する意見募集の結果について

1 意見公募手続の概要

(1) 閲覧・募集期間

令和8年6月22日(月)～令和8年7月22日(水)

(2) 意見を提出できる方

市内在住・在勤・在学またはこの案に関して利害関係を有する方

(3) 閲覧場所

① 川越市役所5階都市計画課、各市民センター、川越駅西口連絡所

② 市ホームページ

(4) 意見の提出方法

① 直接持参

② 郵送

③ FAX

④ 市ホームページからの電子申請

2 意見公募手続きの結果

(1) 意見提出者 16名

(2) 意見件数 66件

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
1	まちづくりビジョン	将来像	現行案の施策は「居場所形成」に偏っている。「居心地のよいまちづくり」に加え、「人を呼び込む目的地機能」と「東西一体化」を軸に、川越駅・本川越駅とは異なる魅力を持つ拠点への転換を期待する。	P18将来像において、「心地よい居場所」の創出を掲げておりますが、加えて「人を惹きつけるまちづくり」(P18)、「駅東西が一体化したまちづくり」(P19)を記載しており、他二駅との連携を前提に、まちづくりの具体化を検討してまいります。
2	まちづくりビジョン	将来像	東京圏へのアクセス性を活かしつつ、川越ならではの自立した地域経済・生活圏を形成し、川越市駅周辺を、市民の暮らしを高め新たな産業と文化を生み出す川越都市圏の中心拠点とすることを提案する。	本市が将来にわたり持続可能な都市でありつづけるためには、都心部に依存した構造ではなく、魅力溢れる拠点づくりが必要だと認識しており、他二駅との連携を前提に、川越市駅における拠点整備の検討を進めてまいります。
3	まちづくりビジョン	将来像	＜ビジョン＞ 心地よさと賑わい、人口減少高齢化対策に向けて、 若年層家族が住み続けたい、3駅の調和がとれたまちづくりをする ＜スローガン＞ 新しい価値を求め まちの未来を自ら切り開こう	P18将来像については、多くの関係者に意見を伺い掲げたものとなります。そのため、原案どおり「東西が結ばれ 心地よさと賑わいが調和するまち ～まちに集う多彩な視点で、新たな価値を創造する～」といたします。
4	まちづくりビジョン	将来像	現在の川越市駅周辺は川越色(小江戸のアイデンティティ)が極めて薄く、生活、通学等の通過するだけの場所となっている。住民と来街者が集まる駅への転換を、ビジョン最優先の課題とすべきで。	現状、駅利用者の多くがまちを素通りしていると認識しております。そのため、P18将来像において、「駅とまちが一体となった拠点を中心に、誰もが訪れたくなる『心地よい居場所』を創出することで、地域住民や関係者が誇りを感じ、多彩な人を惹きつけるまちづくり」を掲げております。
5	まちづくりビジョン	まちづくりの視点	原案は高齢化への対応が重視されているが、子育て世帯、若い世代が住み続けたいと思えるまちにすることも同様に重要だ。子育て世帯や若い居住者の定住・流入を促すことを、まちづくりの重要な目的として明確に位置付けてほしい。	人口減少社会の中、将来にわたり持続可能なまちであるためには、子育て世代や若い世代に選ばれるまちづくりが必要であると認識しており、P21取組方針2において、子育て世代をはじめとした多様な世代にとって「暮らしやすい住環境の形成」を目指すことを記載しております。
6	まちづくりビジョン	まちづくりの視点	原案は移動に困難を抱える市民の視点が十分でない。ユニバーサルなまちづくりの観点を強く盛り込んでほしい。	P17まちづくりの視点において、「Diversity 多様性を尊重し、誰もが活躍できる環境をつくる」を記載しております。今後、まちづくりを進めていく際には、移動に困難を抱える方の視点も踏まえて、事業を推進してまいります。
7	まちづくりビジョン	取組方針	4つの取組方針をハード、ソフトの2軸から整理することを提案する。	本ビジョンが目指すまちづくりにおいては、ハード面(都市基盤等)とソフト面(まちの使い方等)を連携させながら推進していくこととしており、P20からの取組方針では意図して双方を記載しているものとなります。

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
8	まちづくりビジョン	取組方針	取組方針1を「賑わいと魅力を生み出す拠点空間の形成」に変更することを提案する。	本ビジョンで掲げる将来像の実現に向けては、「空間の形成」に留まらず、地域や事業者等と連携してまち全体で魅力や居場所の創出を図るものと考えております。そのため、原案どおり「拠点にふさわしい魅力溢れるまちづくり」(P19,20)といたします。
9	まちづくりビジョン	取組方針	P20に記載されている事例について、高層建造物のあり方は疑問だ。	P20からの取組方針で示すものは事例であり、それを目指すものではございません。今後のまちづくりの具体化において、「拠点にふさわしい魅力溢れるまちづくり」のあり方について検討してまいります。
10	まちづくりビジョン	取組方針	取組方針2を「快適で持続可能な住環境の形成」に変更することを提案する。	「快適で持続可能な住環境の形成」も重要であると考えておりますが、「住みたい・住み続けたいまち」として選ばれるために、より簡潔でわかりやすい原案の「暮らしやすい住環境の形成」(P19,21)といたします。
11	まちづくりビジョン	取組方針	子育てに関する表現を「生活利便機能」等で広くまとめられると、子育て世帯が置き去りにされたように感じる。具体的な記載としてほしい。	原案における記載が「子育て世代、高齢者など多様な世代のニーズを満たす生活利便機能」(P21)にまとめているところですが、子育て世代を置き去りするような意図はなく、本記載で包括されているものと認識しているため、原案のとおりといたします。
12	まちづくりビジョン	取組方針	取組方針3を「東西を繋ぐ交通結節機能と歩行者ネットワークの強化」に変更することを提案する。	P22取組方針3については、「東西を繋ぐ交通結節機能と歩行者ネットワークの強化」だけでなく、駅前広場や自動車道路のあり方、踏切や駅舎といった幅広い基盤整備を想定しているため、原案どおり「交通結節機能の強化」(P19,22)といたします。
13	まちづくりビジョン	取組方針	取組方針3の具体的内容について、鉄道事業者と連携した改札口の増設・新設や駅舎改修といった駅本体のハード整備を、交通ネットワーク強化の最重要項目と位置付けるべきだ。	P22取組方針3において、駅舎を含む交通結節機能の強化を記載しております。今後、鉄道事業者等と連携しながら交通ネットワーク強化に向けた検討を進めてまいります。
14	まちづくりビジョン	取組方針	取組方針4の具体的内容について、【「川越しさ」を活かした駅周辺のブランディングとコンセプトの構築】、【ハード整備への指針化】、【ビジネス機会の創出】の3点に絞って整理することを提案する。	本ビジョンについては、計画的かつ段階的なまちづくりの出発点となるものであり、ビジョン策定後の次のステップとして、ビジョンを具体化した「まちづくり基本計画」の策定を想定しているところです。ご意見いただいたコンセプトの構築やデザイン展開につきましては、今後関係者と協議をしていく中で検討してまいります。

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
15	まちづくりビジョン	方針図	P24方針図における『主な構想道路』として、川越市駅から西へ向かう矢印があるがこれはなにか。	都市計画マスタープラン等に位置付けられた(仮称)川越狭山線であり、本市の中心市街地から狭山市方面を連絡する構想路線となります。今後拠点整備を推進するにあたり、周辺道路ネットワークとの連携を含む駅周辺へのアクセスのあり方を検討してまいります。
16	まちづくりビジョン	その他	東西分断の解消は最優先課題として位置づけるべきだ。現在、西側居住者は踏切横断する必要があり、不便で安全面の課題もある。西口や東西自由通路の整備により、西側エリアも含めた一体的な土地利用転換を進めるべきだ。	川越市駅周辺のまちづくりにおいては、東西一体化が大きなテーマであると認識しており、P18将来像に「東西が結ばれ」、P19取組方針1に「駅東西が一体化したまちづくり」を記載したところです。今後、まちづくりの具体化において、東西のスムーズな移動の実現について検討を進めてまいります。
17	まちづくりビジョン	その他	西口開設は、川越市駅周辺が抱える課題を一体的に改善するための、まちづくりの中核となる事業だ。ビジョンの中で、西口開設を最優先かつ中心的な取組として明確に位置付け、東西動線や駅前広場の整備と一体的に、具体化へ向けて着実に進めてほしい。	
18	まちづくりの進め方	将来像	人口密度減少を解決し、多様な世代に選ばれるまちにするため、ハード・ソフト両面の整備により、Uターン、Iターン、定住を促進するランドデザインの構築を提案する。	
19	まちづくりの進め方	まちづくりの視点	若年層家族が集まり住み続けたいくなるまちは、大きな魅力になる。	人口減少社会の中、将来にわたり持続可能なまちであるためには、子育て世代に「選ばれるまち」となり、定住人口及び関係人口を増やしていくことが重要であると認識しており、P21取組方針2において、子育て世代をはじめとした多様な世代にとって「暮らしやすい住環境の形成」を目指すことを記載しております。今後のまちづくりの具体化において、まちのあり方、ニーズを踏まえた都市機能等について検討してまいります。
20	まちづくりの進め方	まちづくりの視点	日用品店、こども連れでも入れる飲食店、図書館や保育園などの公共施設が増えると暮らしやすくなり、子育て世代の人の流れも取り込めると考える。	
21	まちづくりの進め方	まちづくりの視点	若い子育て世帯が過ごしやすい場所を作っていく姿勢を市が見せることが、市の魅力を永続させていくためには重要だ。	
22	まちづくりの進め方	まちづくりの視点	放課後、人目のある場所で安心してこどもが遊べる場所が必要だ。こども中心のまちづくりをしてほしい。	三駅周辺については、公園のようなこどもが安全に過ごせる空間が少ないものとして認識しており、こどもの視点も踏まえたまちづくりも検討してまいります。

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
23	まちづくりの進め方	まちづくりの視点	観光だけではなく、住みたい、暮らしやすいと思われるまちづくりをすべきだ。	本ビジョンにおける将来像を実現するための4つの取組方針(P19)として、「拠点にふさわしい魅力溢れるまちづくり」とともに「暮らしやすい住環境の形成」を掲げており、暮らしの拠点としての魅力向上も重要だと考えております。
24	まちづくりの進め方	三駅連携	川越駅・本川越駅・川越市駅の三駅周辺で、商業、ビジネス、居住などの機能を分担し、個々の機能の成長環境を整え、人を往来させることで、個性ある繁栄に繋がると考える。	三駅が連携したまちづくりが重要であるため、機能分担を図り、各駅の魅力向上や三駅全体で魅力溢れるまちづくりを推進してまいります。
25	まちづくりの進め方	三駅連携	川越市駅・本川越駅・川越駅間について、自動運転モビリティ等の新たな移動手段の導入等を検討し、観光・日常双方での回遊動線を強化することを望む。	
26	まちづくりの進め方	都市機能	現状の川越市駅周辺は明確な目的地が不足しているため、行きたくなる理由をつくることが重要だ。そこで、ファミリー層を中心とした目的地機能の導入を中核施策として位置付け、エンターテインメント機能を併設することで、学生・若年層の流出抑制、にぎわい創出にもつながると考える。	現在の課題として、駅利用者の多くがまちを素通りしていることが挙げられ、その要因が滞在できる場所や目的地となる施設が不足しているものと認識しております。まちづくりの推進にあたっては、安全性等の課題を解決するだけでなく、「選ばれるまち」として、まちの目的地となり、賑わい創出に資する都市機能の導入等を検討してまいります。
27	まちづくりの進め方	都市機能	地域住民への情報サービスや支援機能の充実を望む。周辺には公民館や図書館、コミュニティ施設といった公共施設がない。医療センターの設置も希望する。	今後のまちづくりの具体化において、まちのあり方、ニーズを踏まえた都市機能等について検討してまいります。
28	まちづくりの進め方	基盤整備	北側には川越市の玄関駅らしい駅舎やロータリーを作ってほしい。南側には緑の公園や広場といった人の憩える場所の設置を望む。	本ビジョンで示す将来像の実現に向けて、「拠点にふさわしい魅力溢れるまちづくり」を推進し、誰もが利用しやすい交通結節機能の強化とともに、訪れたい「心地よい居場所」の創出を検討してまいります。

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
29	まちづくりの進め方	基盤整備	市民の憩いの場となる場所を目指すのがいい。駅周辺には、市民がリラックスできる、楽しめる場所が少なくなっている。歩いていて楽しいまちづくりを目指すのがいい。	P17まちづくりの視点において「Walkable 交通安全性を向上させ、歩いて楽しい空間をつくる」を掲げており、P18将来像において「心地よい居場所」を創出すると記載しております。「心地よい居場所」は人によって違うものと認識しており、賑やかな場所や落ち着ける場所など、誰もが自分らしく安心して過ごせる空間の形成を目指していきたいと考えております。
30	まちづくりの進め方	基盤整備	川越市駅から本川越駅、蔵造りの町並み方面へ向かう、複数の安全で魅力的な歩行ルートを整備してほしい。沿道に小規模店舗、カフェ、休憩スペース、緑、ベンチ、案内サイン、夜間照明などを配置し、住民・学生・駅利用者・観光客が自然に歩きたくなる空間にしてほしい。	川越市駅周辺の道路については、通勤通学時間帯を中心に歩行者と自動車の錯綜が目立つ状況であることから、歩行者ネットワークや安全性の向上に向けた道路整備のあり方を検討してまいります。また、沿道店舗等と連携して回遊性を高める賑わいや憩いの空間を創出していくことも必要だと考えております。
31	まちづくりの進め方	基盤整備	川越市駅を単なる乗降場所とせず、「地域住民の日常を支える駅」「東西をつなぐ交通拠点」「子育て世帯や高齢者も利用しやすい駅」「川越の中心市街地や観光地への玄関口」として、鉄道事業者と連携し、駅施設や駅前空間を含めた利用環境の改善を進めてほしい。西口を開設して駅の東西をつなぎ、駅と周辺市街地を一体的に利用できる環境を整えることが不可欠だ。	川越市駅周辺のまちづくりにおいては、東西一体化が大きなテーマであると認識しており、P18将来像に「東西が結ばれ」、P19取組方針1に「駅東西が一体化したまちづくり」を記載したところです。今後、まちづくりの具体化において、東西のスムーズな移動の実現について、鉄道事業者等と連携しながら検討を進めてまいります。
32	まちづくりの進め方	基盤整備	川越市駅の西口開設や歩行空間の確保などの1日でも早い整備を望む。	
33	まちづくりの進め方	基盤整備	早く川越市駅に西口を開設してほしい。	
34	まちづくりの進め方	基盤整備	現在の危険を減らすための安全対策は、本格整備を待たず、早急に着手してほしい。そのうえで、将来の西口開設や東西動線、駅前広場などの本格整備によって、構造的な問題を解決してほしい。	
35	まちづくりの進め方	基盤整備	蔵造りの壁、川越の織物「川越唐棧」、川越の染め物などのデザインを取り入れた、東西分断を解消する立体連絡通路の新設を提案する。	
36	まちづくりの進め方	都市機能・基盤整備	駅の東西をアンダーパスとデッキでつなぐ駅舎ができるといい。敷地内にはジョッピングエリアと、多様な世代が集まる施設・広場があるといい。	

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
37	まちづくりの進め方	都市機能・基盤整備	川越市駅前に、都市機能を凝縮したシンボル施設「川越未来創造拠点」と市域・川越都市圏を結ぶ交通ハブを一体的に整備することを提案する。	本ビジョンにおける将来像を実現するための4つの取組方針(P19)として、「拠点にふさわしい魅力溢れるまちづくり」「交通結節機能の強化」を掲げており、まちの目的地となる都市機能の導入や、誰もが利用しやすい交通結節点の強化を検討してまいります。
38	まちづくりの進め方	基盤整備	鉄道路線の地下化を検討、実現してほしい。三駅を統合して中間地点の地下へ移転し、現所在地の再開発をする。	川越市駅周辺における東西一体のまちづくりとともに、三駅連携のあり方も具体化していく必要があるものと認識しており、今後鉄道事業者等と連携して検討してまいります。
39	まちづくりの進め方	基盤整備	川越市駅と本川越駅を結ぶ道路は、歩車分離ができておらず、歩行者・車双方にとって危険だ。デッキやアンダーパス、遊歩道により歩車分離をすべきだ。	
40	まちづくりの進め方	基盤整備	現在の危険な歩行環境を放置すべきではない。駅の西側から踏切を渡った先にある歩行者用通路にポールが設置されており、ベビーカーや車椅子が通路を利用できない。歩行者、ベビーカー、車椅子の安全な通行空間を確保するため道路環境の改善や暫定対策を講じるべきだ。	ご意見いただいた歩行者用通路につきましては、市管理の道路ではないため、管理者に情報共有するとともに、踏切や周辺道路の安全対策等について関係機関等と対策を検討してまいります。
41	まちづくりの進め方	基盤整備	西武新宿線は本川越駅の少し前で線路を分岐して川越市駅に接続して、西武新宿線の半数の列車は川越市駅発にすべきだ。	いただいたご意見の実現性については、別々の鉄道事業者の運行路線であり、現時点では技術的・事業的に大きな課題があると考えられます。一方で、乗換環境の改善等の利便性向上に向けた取組については、鉄道事業者とも連携しながら検討してまいります。
42	まちづくりの進め方	基盤整備	P22交通結節機能の強化の本来あるべき姿を深く検討してほしい。基本的には、まちにシームレスに鉄道や道路が自然にとけこみ存在し、邪魔することなく、生活に寄り添うものであり、あくまでも主体は人であるべきだ。	P17まちづくりの視点として、「Walkable 交通安全性を向上させ、歩いて楽しい空間をつくる」を掲げており、誰もが安全で快適に移動・滞在できる歩行者中心の環境の整備及び交通結節機能の強化について、検討してまいります。
43	まちづくりの進め方	基盤整備	川越は、子育てをするには魅力の低い街だと感じる。駅周辺に緑や公園、木陰のある並木が非常に少ない。狭い道幅でも交通量が多くこともと歩いていて危険を感じる人が多いように感じる。	三駅周辺については、公園や緑地空間が少ないものと認識しており、P17まちづくりの視点において、「Green 都市と緑の調和が心地のよい空間をつくる」を掲げております。事業実施の際には、安全性の向上とともに、緑ある空間づくりを検討してまいります。

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
44	まちづくりの進め方	基盤整備	川越市駅にアクセスする道路の整備が不十分で、常に危険を感じている。駅周辺の開発の際には、歩車分離を確実にを行い、安全性の確保をしてほしい。	川越市駅周辺の道路については、歩道が十分に整備されておらず、安全性に課題があり、特に通勤通学時間帯を中心に歩行者と自動車の錯綜が目立つ危険な状況であると認識しております。P21取組方針2において、「誰もが安心して利用できる、歩行者を中心とした環境の整備を進めます」としており、安全性の向上を推進してまいります。
45	まちづくりの進め方	基盤整備	ベビーカーで移動しやすい動線の確保が必要だ。	
46	まちづくりの進め方	基盤整備	駅前整備にあたっては、まず歩行者・自転車・自動車の動線を整理し、誰もが安心して歩ける歩行空間を確保してほしい。	
47	まちづくりの進め方	基盤整備	川越市駅と本川越駅との乗換経路について、空間デザインの統一による心理的ナッジの導入を提案する。	
48	まちづくりの進め方	基盤整備	駅前・周辺道路において、路面の「見せ方」を変えてドライバーの行動心理に直接働きかけるデザインアプローチの導入を提案する。	
49	まちづくりの進め方	基盤整備	朝夕の登下校ピーク時に、空間を「高校生のための安全な歩行・滞留スペース」へと自動拡張する「時間帯可変型レーン」の導入、送迎自家用車をナッジでスムーズに捌き滞留を極限まで減らす「キス・アンド・ライド」ゾーンの最適配置を提案する。	道路等の基盤整備を推進していく際には、騒音やゴミといった環境問題に十分に配慮し、周辺住民等への説明を含め丁寧に進めてまいります。
50	まちづくりの進め方	基盤整備	駅を整備する上で欠かせないのは周辺道路の整備であり、それによって発生する騒音やゴミといった環境問題だ。周辺住民への対応を十分に考えてほしい。	
51	まちづくりの進め方	交通利便性	川越市駅の西側には公共交通機関がほとんど存在しないことが課題であり、西側における公共交通機関の拡充を求める。西側は近年宅地開発が進み、若い世代の流入も期待できるエリアであり、公共交通が整備されれば全世代にとって利便性の高い持続可能な地域となる。	P21取組方針2において、「暮らしやすい住環境の形成」を掲げており、公共交通の充実にあたっては、交通需要を把握したうえで、交通事業者等と連携しながら、検討してまいります。

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
52	まちづくりの進め方	基盤整備・ 交通利便性	まちづくりを道路環境や交通システムにも展開していく必要がある。 例えば、「川越文化の特徴である路地・道筋は変えずに継承する」「公共交通優先の環境をつくる」「次世代運行システムの導入する」などだ。拠点を中心に、民間企業を巻き込んだ社会実験・社会実装も必要ではないか。	時代や環境に合わせてまちづくりを展開していくことも重要であると認識しており、いただいたご意見は事業実施の際の参考とさせていただきます。
53	まちづくりの進め方	協働まちづくり	長期的なまちづくりは、後戻り可能で、柔軟で、楽しく、冒険心をもってすすめてほしい。その過程では、聞き方を工夫して、住民の意見を多く聞いてほしい。立場の違う人の意見を吸い上げるため、個別でのヒアリングなどを検討するのはどうか。	将来像の実現に向けては長期的な取組となることから、計画的かつ段階的に進めていく必要があり、最初のステップとして、ビジョンを多くの人に知ってもらうとともに、長期的なまちづくりの具体化が重要だと認識しております。その中で、ワークショップ等の開催を想定しておりますが、意見聴取の方法についても検討してまいります。
54	まちづくりの進め方	協働まちづくり	バックキャスト視点で、「将来なっていたい姿」を市民はじめ産学官で構想するワークショップを開催することを提案する。	ビジョン策定後の進め方として、ワークショップ等を開催する想定であり、その実施方法やテーマについても検討してまいります。
55	まちづくりの進め方	協働まちづくり	市民参加の取組みとして、ワークショップ等を重ね、最終目標の暮らしの姿を常に共有・確認することを提案する。	
56	まちづくりの進め方	協働まちづくり	将来像への大胆な変革を実現するには、ステークホルダーの相互利益がまち全体の成功の鍵であり、構想段階での合意形成が重要と考える。必要に応じて、産学官民で協働できる枠組みづくりを準備すべきだ。	将来像の実現にあたっては、多くの関係者でビジョンを共有しまちづくりを推進していくことが重要であると考えております。そのため、ビジョンの周知浸透を図るとともに、その実現に向けて関係者協議を進めてまいります。
57	まちづくりの進め方	協働まちづくり	低未利用地の高度利用や商業・生活利便機能の導入を実現するため、川越を本拠地とする企業と協業し、近隣住民の定住動機を高め、観光客の目的地となる実験的フラッグシップ施設の誘致・開発を提案する。	民間事業者との連携については、事業実施の際の参考とさせていただきます。
58	まちづくりの進め方	協働まちづくり	川越で毎週のように多様なマルシェが開催されている背景を活かし、可変型パブリックスペース『マルシェ・インフラストラクチャー・パーク』の整備を提案する。	P18将来像において、「心地よい居場所」の創出とともに、多彩な関係者がまちでつながることが重要であると記載しております。いただいたご意見につきましては、事業実施の際の参考とさせていただきます。

	大区分	中区分	意見の内容	市の考え方
59	まちづくりの進め方	協働まちづくり	市民自らが主役となってまちをアップデートする仕組みが必要だ。 例えば、「木造高機能住宅・集合住宅への建て替え・改修を促進」「川越しさを演出・継承する建物への助成」「住民同士が定期的な意見交換会を通じて街並みのデザインや暮らし方について学び合う」ような仕組みが必要だ。	持続可能なまちづくりにおいては、市民など多様な関係者が連携することが必要であると認識しており、いただいたご意見は事業実施の際の参考とさせていただきます。
60	まちづくりの進め方	社会実験	駅前にある駐車場等を利用した、夜間人口定着のための社会実験の実施を提案する。	まちづくりの推進にあたっては、社会実験等を通して人の流れや利用状況、その効果等を把握していくことも重要であると認識しており、いただいたご意見を参考に関係者と連携しながら、取組等について検討してまいります。
61	まちづくりの進め方	取組ロードマップ	駅周辺の開発、整備事業には時間と費用がかかるため、早急に整備する項目を優先してステップを定め、期限を明確にして進める。	駅周辺整備は非常に長い事業期間となることが想定されるため、P25まちづくりの進め方にあるとおり、優先順位を整理しつつ、できる取組から早期に実施してまいります。
62	まちづくりの進め方	取組ロードマップ	完成までの過程で「暮らしが良くなる実感」を得られるよう、拠点をつくり、周辺へ展開する2段階のプロセスで進めるべきだ。	
63	まちづくりの進め方	取組ロードマップ	今後どのような順序で取組を進め、いつ頃までにどの段階を目指すのかが分からない。市民が計画の進捗を確認できる形で示してほしい。特に西口開設については、ほかの取組に埋もれない形で明確に示してほしい。ビジョンの策定後に進捗が見えなくなり、再び検討だけが続くことのないよう、節目となる目標を工程表として示し、定期的に進捗を公表してほしい。	ビジョン策定の次のステップとして、長期的なまちづくりの方向性を具体化していくことが重要であり、2030年を目安に基本計画を策定したいと考えております。進捗にかかる情報につきましては、定期的に発信していくことが必要であると認識しており、その方法を含め検討してまいります。
64	まちづくりの進め方	その他	ビジョンを実現させるための今後の取組として、最初にすべき「過去の経緯および具体的な既存計画」の情報共有が抜けている。	まちづくりの推進にあたっては、関係者間で過去の経緯や都市計画道路等の既存計画にかかる情報共有を図りながら進めてまいります。
65	まちづくりの進め方	その他	川越は、いつまでも素敵な街、居場所であってほしい。そのため、100年先、次の三世代を考えてデザインしてほしい。	本ビジョンに明確な目標年次はございませんが、P26取組ロードマップにおいて、2050年を目安にまちづくりを推進していく想定としております。未来を見据えたまちづくりが重要だと認識しており、持続可能なまちのあり方を検討してまいります。
66	まちづくりの進め方	その他	スケートセンター跡地を含む周辺環境や、駅西側にある鉄道施設の状況など、これまでとは異なる変化が生じている時期だと感じている。今回こそ西口開設をはじめとする具体的な事業へつなげてほしい。	近年の土地利用の変化を機会と捉え、川越市駅周辺の課題解決と併せて、新たな拠点となるまちづくりを確実に推進していきたいと考えております。